



タロット・カード

～オカルティズムとプログレッシヴ・ロック



昔、ロック・マガジンやフルズ・メイト誌でよくロックとオカルティズムの関係が特集されていた。ロックに哲学や芸術的な思想を持ち込もうとした、あるいは、ロックからそれらを見出そうとした70年代だったからかもしれないが、それは、プログレッシヴ・ロックのフィールドに限らず、あのシェイクスピアのハムレットのように、森の中で魔女と会い、自らの運命的な結末を予言されたマーク・ボランや、バンドの数々の不幸との因果関係を噂された魔術愛好家と言われるジミー・ペイジ。もう、書き出せばきりが無い。

プログレッシヴ・ロック・フィールドでも「音楽は単に魔術的な状態を得るための手段にすぎない。」と語ったロバート・フリップや、そのものずばりのサード・イヤール・バンド等、今まで彼らと、神秘主義、隠密主義との関係は多く語られてきた。

今回、そんな中でも今まで触れられなかった、ある事実を紹介しよう。

まず、下記の2つのアルバムの曲目をよく見てほしい。アルバムは御存知、スティーヴ・ハケットのファースト・ソロとエニドのファーストである。

Steve Hackett/Voyage of the Acolyte

- Ace of Wands
- Hands of the Priestess I
- A Tower Struck Down
- Hands of the Priestess II
- The Hermit
- Star of Sirius
- The Lovers
- Shadow of the Hierophant

Enid/In the Region of~

- The Fool……The Falling Tower
- Death, The Reaper
- The Lovers
- The Devil
- The Sun
- The Last Judgement
- In The Region of The Summer Stars

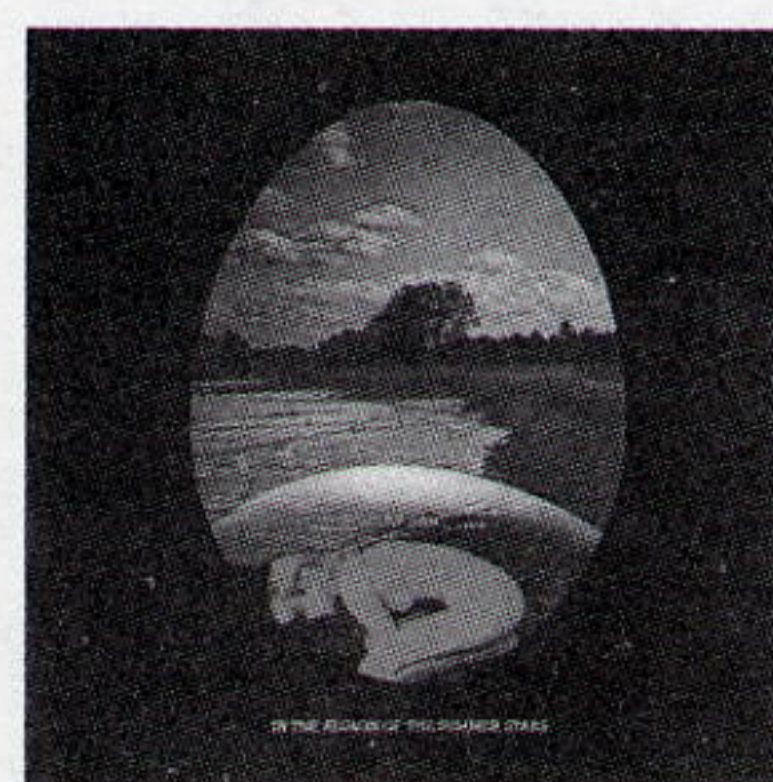
その道に精通した人なら、もうお気づきだと思うが、次に列記するのは魔術的な占いカード“タロット・カード”の大アルカナ・22枚の一般的なタイトルである。

- | | |
|---------------------|-----------------|
| I. MAGICIAN | XII. HANGED MAN |
| II. HIGH PRIESTESS | XIII. DEATH |
| III. EMPRESS | XIV. TEMPERANCE |
| IV. EMPEROR | XV. THE DEVIL |
| V. HIEROPHANT | XVI. THE TOWER |
| VI. THE LOVERS | XVII. THE STAR |
| VII. CHARIOT | XVIII. THE MOON |
| VIII. STRENGTH | XIX. THE SUN |
| IX. THE HERMIT | XX. JUDGEMENT |
| X. WHEEL of FORTUNE | O. THE FOOL |
| XI. JUSTICE | XI. THE WORLD |

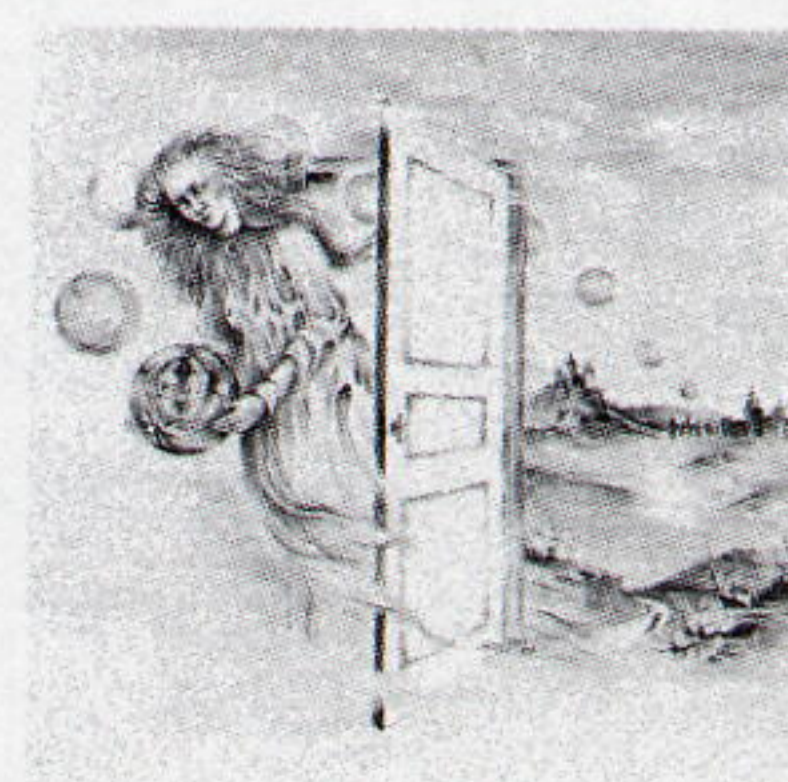
もう、これは単なる偶然ではなく、唯一、大アルカナに含まれないハケットの一曲目もタロットの小アルカナの魔法の杖のエース、つまり、ACE of WANDSなのである。大アルカナは、あの独特の神秘的な絵柄を持ち、小アルカナは4種類の人物カードと10枚の数札が、杖、聖杯、剣、星型の4種ずつあり全56枚で構成されている。トランプの源流である。では、実際に曲目とタロットの名称を照合し、意味について触れていこう。まず、ハケットの一曲目の「Ace of Wands」は、始まり、誕生と言う意味があり、ソロ活動第一弾の一曲目に幸先の良いスタートが出来るようにと付けたのだろう。ちなみに、ラストの曲の「Hierophant」には、人生の転換。心の転換の意味がある。2曲目と4曲目の「Priestess」は、魔女の司祭長と言う意味があり、知性、静穏を表わす。曲想もずばりそのものだ。3曲目の「Tower」は、天の怒りによって崩壊する塔が描かれているカードで、神の怒りを表わす。オクターバーによる不気味なギターが強烈。5曲目の「Hermit」は、以前「世捨て人」なる邦題がついていたが、険しい山の頂に立ち、杖とランプを持つあのツェッペリン・IVの内ジャケットでおなじみの秘められた知恵を持つ隠者のことで、錬金術師を意味していると言う説もある。エニドの曲名にも含まれる「Star」、「Lovers」は、前者が、天体でもっとも明るい恒星・シリウスのことで光輝くものを表わす。後者は美を表わす。ハケットのThe Lovesではサリー・オールドフィールドの美しい歌声が聞ける。エニドのほうの「Death」、「Devil」、「Sun」は、ほぼ言葉からくるイメージの意味を持つ。「Judgement」は天使・ガブリエルを描いた、目覚め、再生の意味を持つカード。エニドのこの曲では、ミサ組の「Dies Irae」(怒りの日)のフレーズ(Formula 3でもおなじみ)が印象的な名曲だ。ハマースミス・Live盤のテイクも最高!

以上、簡単に触れたが、タロット・カードは1枚に約20近い意味があり、当然、占いの時は数枚の組み合わせで行なうわけで、カードの位置、向き、組み合わせで意味が違って来る。深く考えれば曲順も関係しているのかもしれない。又、ハケットのほうには不吉なカードが含まれていないのは気のせいだろうか。そんな事を思いながら、ハケットのアルバムの内ジャケットを見ていると魔法の世界の扉が開きそうだ。

Katsuhiko "LUNA" Hayashi



The Enid
'76 「In The Region of The Summer Stars」



Steve Hackett
'75 「Voyage of The Acolyte」